

編集後記

全身疾患の治療中に突如として消化管出血をきたし、これが致命的となる症例は決して稀ではないが、時には消化管病変の発見が系統的疾患の診断の手懸りとなる場合さえ経験されるのである。このように全身疾患と消化管とは極めて密接な関連があり、日常臨床にとって等閑視できない問題の1つである。

本号では「全身性疾患と消化管」が主題として取り上げられ、心身症、心疾患及び動脈硬化症、血液疾患、結合組織疾患、内分泌・代謝疾患、肝硬変症、脳卒中における消化管の病態に関する論文が集約された。

これらの疾患が原因となって発生する消化管病変や、全身疾患の部分症としてみられる消化管病変は主として血行障害や代謝異常を介するものであることが浮きぼりにされたが、この知見は診療の実際に、あるいは研究に十分に役立つものと信ずる。

医学における「分化」と「総合」が唱えられている現在、自らの専攻する領域や臓器の疾患の診療に没入することなく、常に総合的視野に立って診療を進めることは決して容易なことではないと思われる。

本号の特集を通じて、専門領域の知識が総合診療の場に益々活用されていくことと、消化管病変の病態把握から病因究明へと発展することを期待したいものである。

<田中 弘道>

<編集> 早期胃癌研究会